

授業改善に向けた外化・可視化の効果
－授業科目「環境」の学修を事例に－
Effectiveness of Externalization and Visualization
for Classroom Improvement :
A Case Study of "Environment" Class

清水 誠 国際学院埼玉短期大学

授業内容が理解され、教えている分野の学びを深めたいと思う学生が一人でも多くみられるようになることは、教員の大きな願いの一つである。本研究では、教員が自らの授業を振り返るために実施している授業科目「環境」の学生授業アンケートに見られた数値が高くなってほしい「授業の説明はわかりやすかった」「この分野の学びを深めたいと思った」の2項目の改善を図るため、毎時間の学修後に学修の要点（最重要事項）を外化することに加え、獲得すべき要点を可視化させるメタ認知的な活動を取り入れることの効果を探ることにした。

授業科目「環境」の各授業の学修の要点（最重要事項）を外化し可視化させるメタ認知的な活動は、授業アンケートの評価を高めることに有効に働くことが示唆された。

キーワード：授業アンケート、外化、可視化、授業科目「環境」、短期大学生

1. はじめに

授業アンケートは、教育、授業等の質を改善することを目的として多くの大学・短期大学等で取り入れられている。国際学院埼玉短期大学（以下、本学）においても、すべての授業科目に対し授業終了時にその科目を履修している全学生を対象に学生授業アンケートを実施している。

本学の授業アンケートは、授業について問う設問Ⅰと学修に対する自己評価について問う設問Ⅱからなる。各設問は、「とてもそう思う、そう思う、普通、あまりそう思わない、そう思わない」の5件法からなり、設問Ⅰは(1)授業概要（シラバス）に沿って授業が行われた。(2)授業の説明はわかりやすかった。(3)授業に対する教員の熱意を感じた。(4)質疑や課題に対するフィードバックがあった。(5)この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。の5つの問いからできている。また、2023年度からは授業終了時に加え、実施されている授業途中で中間評価として各授業者が自らの課題と思われる項目について授業アンケートをとり、授業対象者の学生への授業改善を図ることが確認された。

筆者が担当する授業科目「環境」^{註1)}の2021年度の学生授業アンケート結果は、設問(1)の「授業概要（シラバス）に沿って授業が行われた」では「とてもそう思う」が52.3%、設問(2)の「授業の説明はわかりやすかった」では「とてもそう思う」が35.2%、設問(3)の「授業に対する教員の熱意を感じた」ではとてもそう思うが47.7%、設問(4)の「質疑や課題に対するフィードバックがあった」では「とてもそう思う」が36.8%、「設問(5)の「この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った」では「とてもそう思う」が33.0%であった。設問(2)及び(5)が他の設問に比べ「とてもそう思う」と回答した正答者の割合が少ないことがわかる。

授業評価アンケートを用いた授業の総合評価に影響する要因分析を行った谷口(2013)は、5つの潜在変数「授業内容」「教員努力」「クラス環境」「学生努力」「受講結果」への影響を調べた結果、「受講結果」と「教員努力」が「評価」に影響を及ぼすこと、「評価」の平均値が低い授業種別ほど「教員努力」が「評価」に与える影響が大きくなることがわかったと述べている。

清水(2022)は、学習履歴表^{註2)}を活用して授業科目「環境」の授業を行った毎時間の学修前・後に最重要事項を外化し振り返らせるメタ認知的な活動は、学修者が学修の意図を理解し要点をおさえることに有効に働くと述べている。また、土屋・白水・三宅(2011)は、講義のフレームを可視化することが学生の理解支援につながるのではないかと提案している。

本研究では、授業科目「環境」の授業において学習履歴表を活用し学修の要点(最重要事項)を外化^{註3)}することに加え、学修の要点を可視化^{註4)}させるメタ認知的な活動を毎時間取り入れることが、「授業の説明はわかりやすかった」「この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った」といった授業アンケートの評価の改善に効果を与えるのか探ることにした。

2. 研究の方法

2-1 調査対象及び時期

埼玉県内にあるK短期大学幼児保育学科の1年生を対象に、授業科目「環境」で行った。2021年度の調査は、15週目の授業終了時・対象者は88名(男1、女87)に実施した。2023年度の調査は、5週目の授業終了時・対象者は69名(男5、女64)及び11週目の授業開始時・対象者は70名(男5、女65)に実施した。

2-2 調査

(1) 2021年度の調査

学生授業アンケートで実施された設問Iの「(2)授業の説明はわかりやすかった。(5)この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。」の2つの結果を活用した。

(2) 2023年度の調査

ア. 5週目の授業終了時に学生授業アンケートを実施した調査

2021年度調査で学生授業アンケートの回答者の割合が少なかった2つの設問「授業の説明はわかりやすかった」「この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った」の評価が改善されたかを調べるため、アンケート作成ツールのクエスタント^{註5)}を使用して設問1.「授業の説明はわかりやすいですか。」及び設問2.「今までの授業を通して、授業科目「環境」の学びをもっと深めたいと思った。」の2問を実施した。

イ. 11週目の授業開始時に学生授業アンケートを実施した調査

受講生が学修の要点(最重要事項)がよくわかったと受け止めているかを調べるため、アンケート作成ツールのクエスタントを使用して調査を行った。設問は1問で、「「環境」の授業で行っている要点整理の方法(1. 学習履歴表への授業終了時の要点まとめ、2. 次の初めに行う学習履歴表に書かれた要点がまとめられていたかの確認をマーカーペン等でチェックする活動)は、学修の要点がよくわかりますか。」である。

2-3 授業の概要

2023年度の1年前期科目「環境」のシラバスは、図1に示すとおりである。

シラバスの情報		
ディプロマポリシー		
◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性		
授業の概要（7行まで）	テキスト（3行まで）	
本授業では、子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を身につけられるよう、グループワークや発表・討議を通して背景となる専門領域と関連させながら領域「環境」のねらいや内容についての理解を深める。加えて、コミュニケーション・スキル等の汎用的技能を修得するとともに他者と協働して生涯にわたり自律・自立して学修できる能力を培う。	・ 幼稚園教育要領解説 文部科学省、フレーベル館 ・ 保育所保育指針解説 厚生労働省編、フレーベル館	
	参考図書（6行まで）	
	・ 「幼稚園教育要領ハンドブック」 武藤隆監修、学研 ・ 「保育所保育指針ハンドブック」 汐見稔幸監修、学研 ・ あしたの保育が楽しくなる実践事例集「ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成編集代表 岡上直子、ひかりのくに」 ・ 事例で学ぶ保育内容 領域（環境）新訂 武藤隆監修、紀伊國屋書店	
授業の到達目標（7行まで）	授業時間外学習（6行まで）	
(1) 幼児教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を説明できる。 (2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と取扱い上の留意点を説明できる。 (3) 「環境」で扱う教材や遊びについて熟知し、説明できる。 (4) 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、小学校以降の教科等とのつながりを説明できる。	・ 本演習科目では総計15時間の時間外学習が必要とされている。予習・復習として毎回1時間の学修が必要である。 ・ 事前学習として、授業計画に示した学習内容についてテキストや文献等を検索してまとめる。 ・ 事後学習として、学修を振り返り理解を深める。	
成績評価の方法（5行まで）	課題に対するフィードバック等（3行まで）	
成績評価を全体で100%（総点100点）とし、「定期試験における筆記試験50%」「発表及びレポート（40%）」「学びに向かう力10%」の各評価の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。	提出されたレポートや学びを振り返る（メタ認知する）ため毎授業作成する学習履歴表は、コメントを付して翌週以降に返却しフィードバックする。	
週	テーマ（2行まで）	学習内容（2行まで）
1	幼児期の教育の基本と全体構造	幼稚園教育要領や保育所保育指針が示す幼児期の教育の基本と領域「環境」の全体構造 〔時間外学習〕 幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通してくる。
2	領域「環境」のねらいと内容	幼稚園教育要領や保育所保育指針が示す領域「環境」のねらいと内容 〔時間外学習〕 領域「環境」のねらいと内容についてまとめる。
3	自然への気付き	自然の大きさ、美しさ、不思議さなどへの気付きを育む（グループワーク・討議） 〔時間外学習〕 自然と触れ合う遊びや教材について調べてくる。（内容1）
4	物の性質や仕組みへの興味や関心	物の性質や仕組みに対する興味や関心を育む（発表・討議） 〔時間外学習〕 物の性質や仕組みについての遊びや教材を調べてくる。（内容2・7）
5	自然や人間生活の変化への気付き	季節による自然や人間の生活の変化への気付きを育む（発表・討議）（内容3） 〔時間外学習〕 自然や人間生活の変化に関わる遊びや教材について調べてくる。
6	身近な事象への関心と遊び	自然などの身近な事象への関心を育む（発表・討議） 〔時間外学習〕 身近な事象に関心をもつ遊びや教材について調べてくる。（内容4）
7	動植物との関わりと気付き	身近な動植物に接し、生命尊重を育む（グループワーク・討議）（内容5） 〔時間外学習〕 実習園で取り組んでいる動植物と触れ合う事例について調べてくる。
8	文化や伝統に親しむ	我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ（発表・討議）（内容6） 〔時間外学習〕 文化や伝統、行事に親しませる遊びや教材について調べてくる。
9	物や遊具との関わり	物や遊具と関わり、比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりする（発表・討議）〔時間外学習〕 物や遊具についての遊びや教材事例について調べてくる。内8
10	数量や図形などへの関心	日常生活の中での数量や図形などへの関心を育む（発表・討議） 〔時間外学習〕 数量や図形への関心を促す遊びや教材について調べてくる。（内容9）
11	標識や文字などへの関心	日常生活の中での簡単な標識や文字などへの関心を育む（発表・討議） 〔時間外学習〕 標識や文字への関心を促す遊びや教材について調べてくる。（内容10）
12	情報や施設などへの興味や関心	生活に関係の深い情報や施設などへの興味や関心を育む（発表・討議）（内容11） 〔時間外学習〕 情報や施設に興味・関心を持たせる遊びや教材について調べてくる。
13	国旗に親しむ	幼稚園内外の行事において国旗に親しむ（グループワーク・討議） 〔時間外学習〕 国旗に親しむ遊びや教材について調べてくる。（内容12）
14	教材や遊びを通して「環境」の学びを育む留意点	領域「環境」における教材や遊びの工夫・留意点（グループワーク・討議） 〔時間外学習〕 幼児期に扱われる教材や遊びの基本についてまとめる。
15	内容の関連性と連続性	各領域の内容の関連性と小学校以降の教科等とのつながり 〔時間外学習〕 学びの連続性の確保がどのように行われているか調べてくる。

図1 1年前期科目「環境」のシラバス(2023)

2021年度の1年前期科目「環境」のシラバスは、使用したテキスト及び参考図書の入替えがあるが2023年度の1年前期科目「環境」と大きく変わっていない。

2023年度の授業では、本研究の目的である「授業の説明は分かりやすいか」「この分野の学びを深めたいと思ったか」といった2つの授業アンケートの評価を改善するため、学習履歴表を活用した。記述のために使用した学習履歴表は、図2の通りである。

「環境」学習履歴表

1年 組 学籍番号 氏名

学習前

「環境」の学習では何を学ぶ必要があると思いますか？

日付	今日の授業の要点をまとめておこう。	授業の疑問点・感想・質問などを書いてください。
① 月 日		
② 月 日		
③ 月 日		
④ 月 日	以下略	

図2 使用された学習履歴表

この学習履歴表を使って、学修者は授業の終了時に学習履歴表の「今日の授業の要点をまとめておこう」の欄に、その時間に学修した要点（最重要事項）を外化する活動を行った。次の学修の最初の時間には、教員から学修の要点（最重要事項）の提示を行い、学修者は自らが外化した要点について教員から示された学修の要点と整合していたかをマーカーペン等で塗りつぶす作業により、その正誤や不足を視覚的に捉えられるよう可視化させた。また、記述されていなければ修正するように指示した。

なお、2021年度の授業では授業内で学修の要点のまとめを行ったが、学生が学習履歴表を活用して各授業テーマの要点を外化し可視化するメタ認知的な活動は行っていない。

3. 結果とその分析

3-1 学習履歴表への記述

(1) 学生Aの1週目から5週目の学習履歴表への記述は、図3のようであった。なお、日付の欄にある①という数字は図1で示したシラバスの1週目の授業のことである。

日付の欄②にある2週目の授業の「今日の要点をまとめておこう」の欄の記述からは、この授業で学んだ「環境」の「ねらい」について赤ペンで「育みたい資質能力」と記述している。これは、学修の要点（最重要事項）は、赤ペン等で記入しようと指示したことによる。「授業の疑問点・感想・質問などを書いてください」の欄の記述からは、「「ねらい」「内容」「内容の取り扱い」について前よりも詳しく知ることができました。身近な環境に対して興味や関心をもつということがとても大切ということがわかりました。興味や関心をもつということ、生活に取り入れようとする、感覚を豊かにするということが大切という要点をまとめることができました（以下略）」とまとめている。また、3週目の最初の時間に行った前時の要点を確認したことにより、2週目のねらいに書かれた「育みたい資質能力」等がマーカーペンで塗られていることがわかる。3週目では、幼稚園教育要領解説(2018)や保育所保育指針解説(2018)にも記載されている要点（最重要事項）を赤ペンで、子どもと保育者が関わっていき「感動を分かち合う」「伝え合う」「心に寄り添う」といった要点を青ペンで記載していることが分かる。学生自身が考えたこのペンの色の使いわけは、3週目以降も続いている。

日付	今日の授業の要点をまとめておこう。	授業の疑問点・感想・質問などを書いてください。
① 4月7日	環境は保育の中心にあり、全ての事につかかっている。環境問題には自然や伝統的、四季、子どもの観念などがある。子どもの質を育てるには、自然や伝統的、四季、子どもの観念などがある。子どもの質を育てるには、自然や伝統的、四季、子どもの観念などがある。	1.教育を通して育みたい資質能力の3つの柱 ①知識・技能の基礎 ②思考・判断・表現力の基礎 ③学びに向かう力・人間性 2.幼稚園教育要領(環境の位置づけ) 幼稚園教育要領(保育の5領域)の5領域のうち、身近な環境の関わり 3.幼稚園の終りまでに育みたい10の素がある。 「知識・技能」「思考・判断・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つが環境に「10」をまとめている。すね
② 4月14日	1.幼稚園教育要領等の5領域は、「ねらい」「内容」「内容の取り扱い」が示されている 「ねらい」育みたい資質能力。子どもが身に付けたいことをまとめたもの 「内容」ねらいを達成するために「指導する事項」 「内容の取り扱い」指導上の留意点・保育者や援助者の配慮を行うこと。 2.環境のねらいは「身近な環境」自然・社会・物理的「環境要素」(時間経過による変化)の3つがある。	今日の授業で、5領域の内容が「ねらい」「内容」「内容の取り扱い」について前よりも詳しく知ることができた。身近な環境に対して興味や関心をもつということがとても大切ということがわかりました。興味や関心をもつということ、生活に取り入れようとする、感覚を豊かにするということが大切という要点をまとめることができた。このことが大切だということをまとめた。すね
③ 4月21日	内容7.自然に親しみ生活し、その大まかさは、不思議さには対応して 1.育みたい力は「育みたい資質能力」(知識・技能の基礎) 2.内容を扱う際の留意点・自然と関わり、かかわることを促す。 (自然の時間や環境を準備する)子どもは「感動を分かち合う、伝え合う、心に寄り添う」 3.活動や教材を扱う際の留意点 ・自然環境を豊かにする ・自然環境を豊かにする	5日の授業で、子どもの自然要素を見ることができた。知識・技能、思考・判断・表現力の基礎、学びに向かう力・人間性、共に「歴史をたどる」ことが大切だということを知ることができた。心に寄り添う、一緒に育みたい資質能力を自然を活用して発見していき、子どもが自然の力を活用して、初めは自然環境を豊かにする。初めは自然環境を豊かにする。すね
④ 4月28日	1.育みたい力は「物との関わりを豊かに、物の性質や仕組みに興味や関心をもつ」 2.内容を扱う際の留意点「物に働きかける」 3.活動や教材を扱う際の留意点「自然環境を豊かにする」 ・自然環境を豊かにする	今日の授業で「自然環境を豊かにする」という内容で、物との性質を知り、興味や関心をもつことが大切だということを知ることができた。自然環境を豊かにする、物に働きかけることが大切だということを知ることができた。自然環境を豊かにする、物に働きかけることが大切だということを知ることができた。すね
⑤ 5月12日	1.育みたい力は「自然や人間の生活に「変化」がある、これは自然 2.内容を扱う際の留意点「季節感を取り入れる(働きかける)」 3.活動や教材を扱う際の留意点「自然環境を豊かにする」 ・自然環境を豊かにする	5日の授業で、自然と関わりの中で様々な興味や関心をもつということを知ることができた。季節感を取り入れる、自然環境を豊かにする、物に働きかけることが大切だということを知ることができた。自然環境を豊かにする、物に働きかけることが大切だということを知ることができた。すね

図3 記述された学習履歴表

(2) 学生 A の 9 週目の学習履歴表への記述は、図 4 のようであった。この学修は、幼稚園教育要領 (2017) や保育所保育指針 (2017) では、領域「環境」の内容 8 番目にある「身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ」にあたる。授業は、この週の発表班である 5 班により進められた。発表テーマは、「輪投げ遊び」である。用意された新聞紙 1 枚、2 枚、3 枚で作成した 3 つの輪投げの輪を使って、どれが 2m・3m・4m 先の的のペットボトルに入りやすいかを比べて遊ぶ活動を行った。学生 A は、この活動では、幼稚園教育要領解説 (2018) や保育所保育指針解説 (2018) にも記載されている「探究していく態度を育てる」「対象となる物に十分関わることができるようにする」「幼児の関心を大切にすること」「試行錯誤すること」「創意工夫すること」ことが大事であることに気づき、赤ペンで自身の考えを外化し要点 (最重要事項) としてまとめている。加えて、保育者の「関わりが重要」であること、幼児が「繰り返し挑戦し、自信を深める」こと、「考えたり、試したり、作ったりすること」が大事であると青ペンで要点をまとめている。

10 週目のはじめに教員と学生達とで行った前時の振り返りの時間では、自らが外化した要点 (最重要事項) をピンクのマーカーペンで塗りつぶす作業を通して、前時の学修で獲得すべき要点と整合して記述されているか可視化していることがわかる。

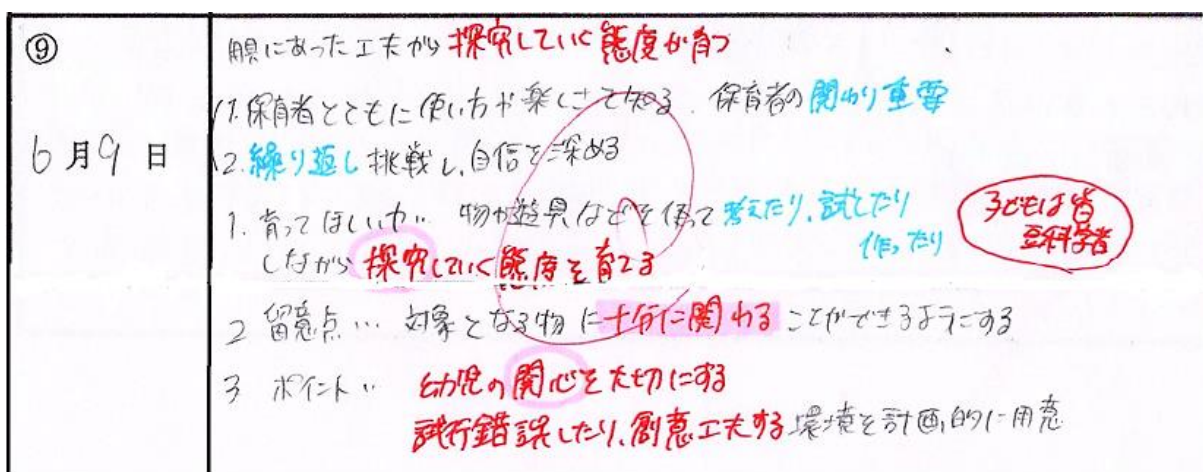


図 4 9 週目の「今日の要点をまとめておこう」の欄の記述

3-2 5 週目の授業終了時に学生授業アンケートを実施した結果

(1) 5 件法で学生授業アンケートを実施した設問 1 「授業の説明はわかりやすかった。」の回答結果は、表 1 のようであった。

5 段階の選択肢	令和 3 年度(n=88)	令和 5 年度(n=69)
とてもそう思う	31	40
そう思う	32	15
普通	21	14
あまりそう思わない	4	0
そう思わない	0	0

表 1 問いに対する回答 (単位は、人)

「とてもそう思う」と回答した学生は、令和3年度は31人(35.2%)であり、令和5年度は40人(58.0%)と令和3年度に比べ割合が多いことがわかる。「とてもそう思う」とそれ以外の回答結果について令和3年度と令和5年度について直接確率計算 2×2(Fisher's exact test)を行うと、両側検定で $p=0.0060$ ($p<.01$) という結果であり、1%水準で有意な差が見られることが分かった。

(2) 5件法で学生授業アンケートを実施した設問2.「今までの授業を通して、授業科目「環境」の学びをもっと深めたいと思った。」の回答結果は、表2のようであった。

5段階の選択肢	令和3年度(n=88)	令和5年度(n=70)
とてもそう思う	29	36
そう思う	40	23
普通	15	11
あまりそう思わない	3	0
そう思わない	1	0

表2 問いに対する回答(単位は、人)

「とてもそう思う」と回答した学生は、令和3年度は29人(33.0%)であり、令和5年度は36人(51.4%)と令和3年度に比べ割合が多いことがわかる。「とてもそう思う」とそれ以外の回答結果について令和3年度と令和5年度について直接確率計算 2×2(Fisher's exact test)を行うと、両側検定で $p=0.0230$ ($p<.05$) という結果であり、5%水準で有意な差が見られることが分かった。

3-3 11 週目の授業開始時に学生授業アンケートを実施した結果

「環境」の授業で行っている授業の終了時に要点を学習履歴表に記述し、次時の最初に学修の要点が記述されているかをマーカーペン等で確認する方法を行うことにより、受講している学生が学修の要点がよくわかると受け止めているかを5件法で調べた結果は図3のようであった。

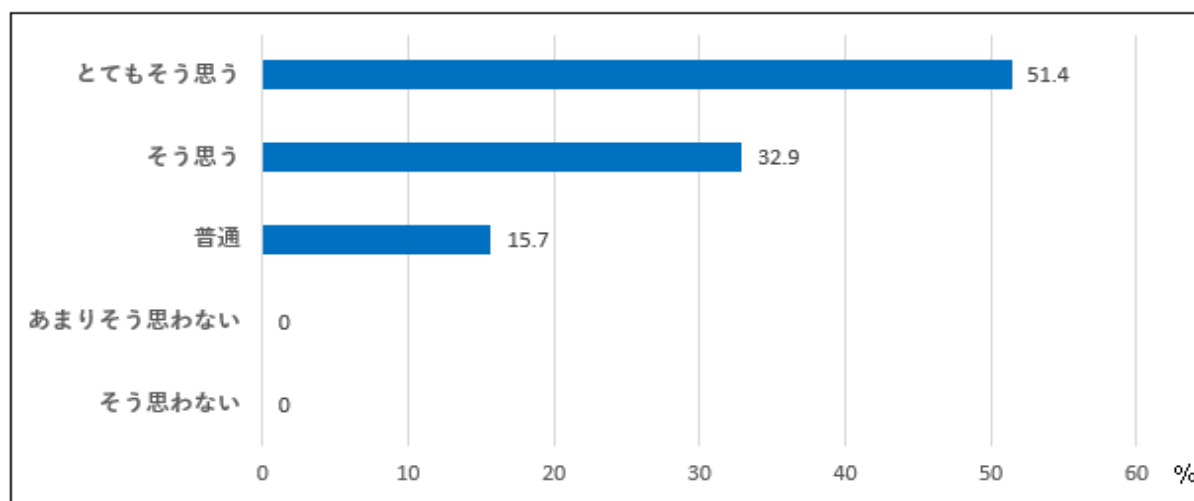


図3 学修の要点(最重要事項)がよくわかるかを調べた結果

「とてもそう思う」と回答した学生は全体の 51.4%、「そう思う」と回答した学生は全体の 32.9%であった。両者を合計すると 84.3%の学生が学修の要点がよくわかると回答していることがわかる。

4. 考察

本研究は、学習履歴表を活用し学修の要点（最重要事項）を外化することに加え、学修の要点を可視化させるメタ認知的な活動を毎時間取り入れることが、「授業の説明はわかりやすかった」「この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った」といった授業アンケートの評価の改善に効果を与えるのか探ることであった。

令和3年度及び令和5年度の2つの問いに対する比較からは、「授業の説明はわかりやすかった。」「今までの授業を通して、授業科目「環境」の学びをもっと深めたいと思った。」とする学生数は両者ともに令和5年度の調査のほうが有意に多いことが分かった。また、11週目の授業開始時に学修の要点がよくわかると受け止めているかを調べた結果からは、学修の要点がよくわかると回答した学生が受講者の84.3%と高い数値を示すことが分かった。授業アンケートした学生の意識調査の結果からも、清水（2022）が調査した授業の回数を重ねることで要点を意識した記述が多くの特験者に見られるようになるという結果と同様のことが言える。

以上のことから、学習履歴表を使って学修者に授業の要点を外化させ、前時に外化した要点が正しく捉えられていたか次時の最初に可視化する作業を通して振り返らせる活動を行うことは、「授業の説明はわかりやすかった」という評価を高めることに加え、「この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った」という学修者の意欲や興味・関心にも有効に働くことが示唆される。学修者に外化し可視化するというメタスキーマを獲得するための支援をすることが重要であるといえる。

5. おわりに

学修者は、その時間の学修の要点を学んでいるつもりでも授業で求める要点と合致していないことがよくあることである。このことは、学修者だけでなく授業をしている教員も気づかないことが多い。

本研究では、学修者に授業で学んだことを外化させ、次時のはじめに前時に学んだことの要点が記述されているかをマーカーペン等で可視化して確認するということの効果を、学生へのアンケート調査から調べた。何を学んだのか、身についたのかといったことを外化・可視化し、内化・内省するメタ認知的な活動を繰り返し行うことで、学修者に「授業の説明はわかりやすかった」と意識させることが示唆される。加えて、授業科目「環境」で育ってほしい力、留意点や活動を考えていく際のポイント等の要点（最重要事項）を確実に捉えることで「この分野の学びを深めたいと思った」という気持ちを高めることが示唆される。

謝辞

本研究は、2021-2023年度科学研究費補助金・基盤研究(C) (課題番号：21K03008、研究代表：高

垣マユミ)の助成を受けて行われた。感謝したい。

著者の利益相反： 開示すべき利益相反はない。

註

- 1) 保育所保育指針(2017)、幼稚園教育要領(2017)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017)で示された領域「環境」は、筆者が勤務する幼児保育学科においては幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のため、1年生の前期授業科目として「環境」(授業方法演習:1単位)、後期授業科目として「環境領域指導法」(授業方法演習:1単位)として開設されている。
- 2) 大学での学びは「学習」ではなく「学修」とされている。これは、平成24(2012)年の中央教育審議会の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」の中で、「大学設置基準上、大学での学びは「学修」としている。」という記載による。しかしながら、堀(2009)が考案した「学習履歴表」はこれ以前のため「学習」という記述がされている。本稿でも開発者の記載にあわせ「学習」と記載する。
- 3) 外化(externalization)とは、認知科学辞典(日本認知科学学会)の中で「内部で生じる認知過程を観察可能な形で(発話やメモといった手段を使用して)外界に表すこと」と述べられている。本稿ではこれに準じて、学生が授業で学んだ要点を頭の中で整理し学習履歴表に記述する形で外界に表すことを外化するとして使用している。
- 4) 可視化(visualization)とは、認知科学辞典(日本認知科学学会)の中で「例えば、数値データをグラフ化するなど視覚的に捉えやすい形式で表現すること」と述べている。本稿ではこれに準じて、学生自身が学修を通して外化した要点について、教員から示された学修の要点と整合しているかをマーカーペンで塗りつぶす等の作業を通してその正誤や不足を視覚的に捉えやすい形式で表現すること/したものを指している。
- 5) クェスタント(Questant)とは、株式会社マクロミルが提供しているアンケートフォーム作成ツールである。

引用文献

- 堀哲夫(2009)「学習履歴を中心にした大学の授業改善に関する研究—OPPAを中心にして—」
教育実践学研究：山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要14, pp.64-71
- 厚生労働省(2017)「保育所保育指針」
- 厚生労働省(2018)「保育所保育指針解説」フレーベル館
- 厚生労働省(2017)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
- 文部科学省(2017)「幼稚園教育要領」

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

清水誠（2022）「学習履歴表を活用した授業改善－領域「環境」の学習を事例に－」国際学院埼玉短期大学研究紀要第 49 号, pp.1-10

日本認知科学学会編（2002）「認知科学辞典」共立出版

土屋衛治郎, 白水始, 三宅なほみ, (2011)「講義のフレームを可視化することによる理解支援」日本認知科学会, 18(2), pp.366-369.

谷口るり子（2013）「授業評価アンケートを用いた授業の総合評価に影響する要因の分析」日本教育工学会論文誌 37 (2), pp.145-152